

1971年8月7日 第三種郵便物認可（毎月6回 1の日・6の日発行）
2002年3月9日発行 SSKA増刊・通巻4132号

SSKA

ああるびい

神奈川支部会報第22号

私たち自身で
治療法の確立と
生活の質の向上を目指す

JRPS神奈川支部

JRPS神奈川の活動予定ですが、

<ミニ集会>

3月9日(土)、4月14日(日)、5月12日(日)

いずれも13時~16時、県民サポートセンターで行います。

<JRPS神奈川定期総会>

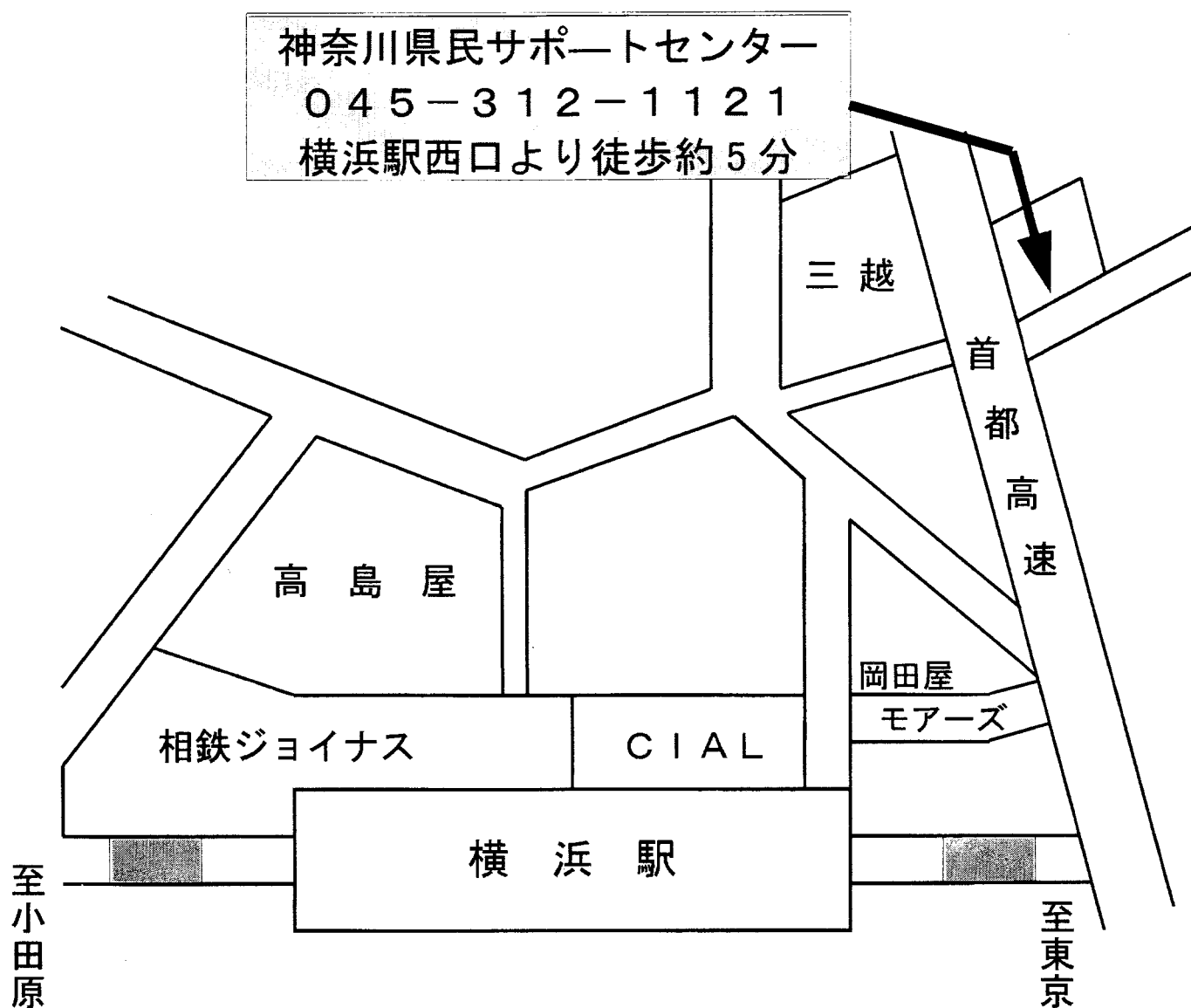
6月9日(日) 13時~17時、県民サポートセンターで行いま

す。総会についての詳細は次号でお知らせします。

神奈川県民サポートセンター

045-312-1121

横浜駅西口より徒歩約5分



目 次

— J R P S 神奈川の活動 —	2
● J R P S 神奈川の活動予定	2
— 情報コーナー —	2
● 第 1 2 回 国際網膜世界会議 参加募集について	2
● ロービジョンケアルームがオープン	3
● 公開シンポジウムの御知らせ	4
● よもやま情報(18)	5
● N P O 法人 歩行ガイドロボット開発普及研究会 設立記念講演会	6
● ロビーコンサート・スペシャル 2 0 0 2	8
● ドラえもんのポケット	9
● 超小型強カライト	9
● 料理手引書のご紹介	10
— 投稿 —	11
● プロジェクト U	11
● 陶芸で遊ぼう	13
● 希望の光	14
● 世界会議に参加してもいいかな?	15

— J R P S 神奈川の活動 —

● J R P S 神奈川の活動予定

3月 9日 (土)	ミニ集会	県民サポートセンター
4月 14日 (日)	ミニ集会	県民サポートセンター

— 情報コーナー —

● 第12回 国際網膜世界会議 参加募集について

1月1日より世界大会の参加申し込みの受付が始まりましたが、申し込みの手順について訂正と確認を致します。前回の会報で申し込みの取りまとめを致しますと連絡しましたが事務処理の都合もあり、また、本部の体制もできているので各自申し込み用紙に必要事項を記入の上ファックスまたは郵送で本部まで直接申し込んでください。

申し込み用紙は、本部から出された世界会議の要項の後ろの方についています。ファックス番号も書いてあります。無い場合は支部長の大窪まで連絡いただければ郵送いたします。早割での申し込みがお得ですので早めに申し込んでください。非会員の方でこの際に入会しようと思われた方も大窪まで連絡いただければ入会の申込書を郵送いたします。申し込み後2週間程度でJ R P S本部から請求書が届きますので参加費等の費用を指定の郵便振替口座に振り込みます。入金確認後本部事務局より参加確認証や宿泊確認証が発行されます。8月3日は、行き方の不安な方も多いと思いますので皆で誘い合わせて行きましょう。集合場所や時間については次号の会報で連絡いたします。お早目の申し込みをよろしく願いいたします。ご不明な点がありましたら下記まで連絡ください。

J R P S 神奈川支部長 大窪 融

電話・ファックス 04

メールアドレス ohku.big@fine.ocn.ne.jp

●ロービジョンケアルームがオープン

横浜市青葉区の東急田園都市線市ヶ尾駅前に、今年1月ロービジョンケアルームがオープンしました。

県下では神奈川ロービジョンネットワークの活動が活発に行われるようになるにつれてロービジョンケアについての関心が高まってきています。

このロービジョンケアルームは、梅の木眼科医院が隣接の建物を利用して開設した設備です。

開設の目的や今後の運用について、梅の木眼科の加藤道子院長にお聞きしました。

ロービジョンケアルーム開設のきっかけを加藤院長は、「神奈川ロービジョンネットワークの活動との出会いです。医療現場での役割を考えると、先端医療の研究・治療をする場所ではロービジョンケアを必要とされる患者さんが多いと思いますが、限られた時間では、治療から福祉制度、便利な道具の使い方まできめ細かくお話しするのは大変です。各種ロービジョンや日常的な医療相談は開業医の役割ではないか？ との考えからこのルームを開設しました。」と話しておられました。

ロービジョンケアルームには常に梅の木眼科医院の職員の方が、様々な患者の相談にのってくれています。拡大読書機、ルーペ各種、遮光眼鏡などの視力補助具、音声時計、音声電卓、調理具、大活字本、強力懐中電灯など生活便利グッズを揃えて、触って、体験して、いろいろな事を知ることによって少しでもQOL（生活の質）の向上をを願っています。

加藤院長は、「このルームを利用された視覚障害者の皆さんに、様々な補助具や福祉制度を知ってもらい、又新しい情報を提供してもらい、そこから新しい情報発信ができれば、そして公的サービスや各地の施設などとの橋渡しができれば・・・。」と。

・開院日：毎週 月・水・金・土曜日。

・時 間：12時～16時

- ・場 所：横浜市青葉区市ヶ尾町1168-1

梅の木眼科医院

電話：045-972-4911

- ・交 通：東急田園都市線市ヶ尾駅下車徒歩3分。

市ヶ尾駅改札を出て左へ行くと、わりと通行量の多い道路を直進して横断します。渡り終わるとマクドナルドが正面にあります。マクドナルドの角を左へ行くと横断陸橋があります。それを渡ってまっすぐ進むと左にセブンイレブンがあります。直進50m右が「梅の木眼科医院」です。

●公開シンポジウムの御知らせ

この公開シンポジウムはRI世界会議が行われる同じ会場で、世界会議が終わってから開催されます。人工聴覚については東京大学の加我教授が人工視覚についてはドイツのZrenner教授と八木先生（ニデック視覚研究所所長）が講演されます。

- ・公開シンポジウム

「人工視覚と聴覚—ものが見える、音が聞こえる」

- ・共催：日本学術会議感覚器医学研究連絡委員会

日本耳鼻咽喉科学会

日本眼科学会

- ・日時：2002年8月4日（日）14:00～

- ・会場：幕張プリンスホテル

- ・講演者：加我 君孝（東京大学）

Eberhart Zrenner

(Univ. Tübingen)

八木 透（ニデック視覚研究所）

- ・入場：無料

●よもやま情報（17）

【第7回中途視覚障害者の集い】

- ・ 目的：視覚障害者の自立を図るとともに、視覚障害者本人や家族に社会参加を促すことを目的とする
- ・ 日時：3月17日(日)10時から15時
- ・ 場所：神奈川県ライトセンター
横浜市旭区二俣川1-80-2 電話045-364-0023
相鉄線二俣川駅下車徒歩15分、またはバス使用は
ライトセンター前下車
- ・ 参加費：500円(資料代)
- ・ 主催：神奈川県視覚障害者福祉協会、
神奈川県視覚障害者の生活と権利を守る会
- ・ 後援予定：神奈川県、神奈川県身体障害者連合会、
神奈川県ライトセンター、
七沢ライトホーム
- ・ 日程：

9:30	受け付け開始
10:00	開会式
10:30	講演 [視覚障害者の福祉制度について] 講師 七沢ライトホーム指導員 赤塚綾子氏
12:00	昼食・休憩
13:00	分科会(体験コーナー)・相談コーナー 第1分科会(電子レンジを使った料理体験)材料 費実費負担 第2分科会(視覚障害者卓球体験) 第3分科会(パソコン体験)
15:00	終了
- ・ 申込締切：3月11日(月)まで
- ・ 申込先：神奈川県視覚障害者福祉協会 担当 渋谷
電話045-311-8736
神奈川県視覚障害者の生活と権利を守る会事務局 今津
電話0463-91-4818

【JTBが「バリアフリープラザ」設置】

障害者が参加しやすいツアーなど、いろいろな情報を提供

<http://www.jtb.co.jp/bfplaza/1.html>

●NPO法人 歩行ガイドロボット開発普及研究会 設立記念講演会

NPO法人歩行ガイドロボット研究会は、視聴覚障害者等が利用する歩行ガイドロボット等の開発と普及に関する事業を行い、視聴覚障害者等の自立生活と社会参加の促進に寄与することを目的に2002年1月に法人格を取得しました。当法人は、具体的に次の事業を行います。

- 1 視聴覚障害者の自立生活、社会参加を促進するための調査研究
- 2 視聴覚障害者の移動を補助するロボット等の研究開発及び普及促進
- 3 その他視聴覚障害者の生活の利便の向上を図る活動

設立を記念し講演会とロボットのデモンストレーションを行います。皆様の参加をお待ち致します。

記念講演会のプログラム

- ・日時 平成14年3月10日(日) 午前10:00～午後3時
- ・場所 山梨大学工学部構内
- ・参加費 無料(弁当をご持参下さい。)
- ・プログラム
 1. 10:00～12:00 山梨大学構内
歩行ガイドロボットのデモンストレーション
 2. 13:00～13:30 工学部構内T0-1教室
NPO法人 歩行ガイドロボット研究会総会
 3. 13:30～14:30 記念講演会 工学部構内T0-1教室
「育つ技術と育てる技術」 伊藤洋教授 山梨大学工学部長
山梨TLO会長

「ロービジョン 人工視覚の現状」

塚原重雄教授

山梨医科大学病院長

4. 14:40~16:00 パネル討論会

“歩行ガイドロボットの使用希望者から”

司会 森英雄理事長

パネリスト：中村善晁氏、穂阪和宏氏、往田けい子氏、
宮原章郎氏、吉川勝彦氏、田中利佳氏（順不同）

・会場案内

甲府駅北口の誘導チャイムの下に、黄色い山梨大学の腕章をつけた案内人を配置します。（9時から10時半まで）

タクシー乗り場：北口階段を降りて直進30メートル右側

（山梨大学工学部正門下車 料金は1区間の見込）

バス乗り場：北口階段を降りて右折50メートル 15分毎に発車

（「積翠寺ゆきまたは武田神社ゆき」乗車「山梨大学」下車

運賃100円 → 押しボタン信号機により道路を横断

→ 工学部正門

・甲府駅、山梨大学に到着してからの連絡先

・参加申込み先

森英雄 FAX *****

email fo *****

飯島達美 FA *****

・申し込み 〆切り 2月25日（月）

氏名 (年齢)

連絡先住所

電話番号

ヘルパーさん同伴 あり、なし

甲府駅到着予定時刻

●ロビーコンサート・スペシャル2002
～ロビーコンサート出演者による特別演奏会～
洋・邦・雅・舞 「花見の饗宴」

プログラム

<洋楽・邦楽・雅楽の楽器による演奏に創作舞踊を加えた華麗な舞台です>

○箏とギターの日本のメロディ

荒城の月、月の砂漠、さくら

○胡飲酒 序・破 (こんじゅ の じょ・は)

○倭四季絵巻 (巻幡初實 作曲)

○流れる<漂白> (金子兜太 俳句、巻幡初實 作曲) ほか

- ・日時：3月23日(日) 14:00開場 14:30～16:30
- ・会場：障害者スポーツ文化センター横浜ラポール
JR・市営地下鉄「新横浜」より徒歩10分
駅前より30分間隔で無料送迎バスあり、障害者優先
- ・主催：障害者スポーツ文化センター横浜ラポール
URL <http://www.city.yokohama.jp/me/rapport/>
- ・入場料：無料(入場整理券が必要)
- ・定員：抽選で300名
- ・申込方法：3/9(土)必着。ハガキ、FAX、直接ラポール窓口で申込みください。1枚の申込で4名まで。
参加者全員の氏名、年齢、障害の有無、内容。
代表者の氏名、住所、電話番号を記入。視覚障害の方は、電話での受付もできます。
抽選結果は、代表の方にハガキでお知らせします。
- ・申込・問合せ先：横浜ラポール企画課
「ロビーコンサート・スペシャル」J係
〒222-0035 横浜市港北区鳥山町1752
TEL 045-475-2055
FAX 045-475-2053

●ドラエモンのポケット

♪こんなものいいな・できたらいいな♪

「何でもメガネ」

大ちゃん : 「ドラエモン、何でも見れるメガネほしいな。」

ドラエモン : 「ダメ～、大ちゃんは悪用するから。」

大ちゃん : 「そんな事いわないで、最近眼が更に悪くなってテレビが見れなくなってきたんだよ、お願い！

絶対悪用しないからさ～。」

ドラエモン : 「絶対？ 約束できる？」

大ちゃん : 「うん、約束する。」

(ゴチャゴチャとポケットをかきまわして)

ドラエモン : 「しょうがないな～、ほれ、何でもメガネだよ」

なんて事が大阪市立大学と三洋電機が共同開発した装置で現実の物になりそうです。私達RPの患者で網膜の中心部分の一部でも残っている人、角膜を損傷した人などの網膜に直接焦点を合わせてくれる装置らしい。メガネはゴーグルタイプで、テレビなどがきれいに見えるんだって。2004年には発売開始したいとか。楽しみだね。

●超小型強カライト

- ・暗がり時計やメモを見る時。
- ・鍵穴やナンバリング鍵の確認に。
- ・ホテルの室内表示の確認の時。
- ・エレベーターの階数ボタンの確認に。キーホルダータイプの超小型(7×25×5mm)ライトです。電池交換不要。電池がなくなれば無償交換。

・価格 : 2,200円(税・送料込み)

問合せはJRPS東京分室、電話 : 03-3834-5737まで。

●料理手引書のご紹介

財団法人すこやか食生活協会（旧称：視覚障害者食生活改善協会）発行の料理のテキストをご紹介します。拡大文字に点字が併記されています。しっかりした厚手の用紙（表面はツルツル加工がされています）を使用しリング綴じされているので、料理をする際にもテーブルや作業台に広げて見ながら料理をするということも可能です。

（経験者は語る…）

- ◎ヤングのライスクック…3,000円
- ◎みんなでミートクック…3,000円
- ◎ごはん好きだもん…3,000円
- ◎みんなで小麦粉クック…3,000円
- ◎みんなで牛乳クック…3,000円
- ◎ライスクックで知恵くらべ…3,000円
- ◎あなたもできるクッキング…3,000円
- ◎調理用語事典…2,000円
- ◎みんなでフルーツクック…3,000円

定価は一般の料理テキストより高めになっていますが、下記の手続きをすることにより、点字図書価格差保障制度で定価から点訳のためにかかった費用を差し引いた金額で購入できます。（市町村によっては、この自己負担分も助成されることがあります）

《購入方法》

①（財）すこやか食生活協会へ申し込む

TEL：03-3583-9395（担当：柴田さん）

URL トップページ：<http://www.sukoyakanet.or.jp/index.html>

出版物のご案内：

<http://www.sukoyakanet.or.jp/activity/activities04.html>

（ホームページからも購入申し込みができます）

- ②（財）すこやか食生活協会から点字図書発行証明書が送られてくる
- ③点字図書発行証明書を各市町村の障害福祉課へ提出
- ④障害福祉課より（財）すこやか食生活協会へ書類が送られる

⑤本人の所へ希望の本と代金振込用紙が届く

この協会では、高齢者、障害者の自立した生活（特に食生活）をサポートするため、さまざまな取り組み（情報の提供、ユニバーサルデザインの普及等）をされています。インターネットを活用されている方は、ぜひ一度上記のページへ遊びにしてみてください。ネット上でも手軽にできる料理のレシピが公開されています。

— 投 稿 —

●プロジェクト U

横須賀市 内田 知

この物語は、視覚障害者が日常生活を送るために必要な知識とその方法を指導するための施設”ライトホーム”、そこで働く職員と訓練を受けるために生活をしている障害者たち、そしてウッチャンの自己中心的な都合の良い愛と爆笑の記録である。

時間的なずれはあるが、ウッチャンがホールとよばれる談話室で仲間と世間話をしていると、職員が施設見学者を連れてやってきた。案内をしている職員はウッチャンを見つけると「後で戻ってくるから、いつもの”あれ”頼むね」と言ってライトホーム内を案内していた。そしてそれが終わると職員は楽しそうな顔をして「内田さん、訓練を受けている当事者として、ここの印象を見学に来た人達に話していただけますか？」ウッチャンは「はい、わかりました」と言いながら、姿勢を正し椅子に座り直した。周りにいた障害者達も話しをやめて、ウッチャンが話し始めるのを何故か笑いをこらえて待っていた。

「では始めます。今にもこわれそうな設備が整った施設の中で、心優しき職員の鬼の様な指導のもと、その辛さに耐えかねてうれし涙に枕をぬらした夜もありました。しかし今では、一人で街に出かけ買い物をして帰ってこれる様にもなりました。これも職員の指導のお陰と言うより、私の努力のお陰と自負しております。しかし、ご来場の皆

様方にこの様な話しをできるのも、認めたくはありませんがライトホームがあればこそと、いやいや感謝しております。まだまだ訴えたいことはありますが、ここでの生活が残っていますので身の安全の為に、ここまでにしたいと思います。」

それを聞いていた見学者達は一言も出さず、だがその場にいた仲間達は大声を出して笑い出した。ウッチャンに話しをする様に仕向けた職員も笑いをこらえながら「ありがとうね」と言って見学者を連れて去って行った。ホールに残った連中はまだ笑っていた。そして「ウッチャンのギャグの中で、何回聞いても笑えるのは今のパターンだけだな」といった。それを聞いて「他にもあるだろう」と言葉を返した。ウッチャンに、そこにいた全員がハモるがごとく「ない」と言って又笑い出した。

その一部始終を見ていた職員が「内田さん変わったねー。ここに来た頃は何かにおびえるいじめられっ子みたいな顔をしていたのに、今じゃ口は悪いわ、態度はでかい。何でそんな風に変わっちゃったんだい」それを聞いてウッチャンは「変わった訳ではない。本当の自分に、障害者になる前の内田って人間に戻っただけだ」すると職員が「戻らんだったら、良い所も戻ってもらわなけりゃ」それを聞いた仲間の一人が「戻りようがないよ。良い所なんかないんだから」すると職員が「そうか」と笑った。「俺に良い所がないって、それは偏見だ、差別だ、訴えてやる、ぐれてやる」とウッチャンが大きな声を上げると、又々ハモるがごとく全員で「もう充分ぐれてるだろうが」と笑いながら言葉を返した。

ライトホームに何の為に来たか、納得して入所したのに、人前では言葉も態度も積極的にやると示していたが、事実はそれ以上に不安な気持ちで過ごしていたのである。ウッチャンだけでなく、ほとんどの入所者はそんな気持ちでいただろう。しかし、できないと思っていた事が、工夫とその方法を知る事で、学ぶ気持ちを持てば生きて行けるという事がわかってくる。

できる、できないを論ずるよりも、学ぶ勇気を持つか、持たないかで明日は変わる。

●陶芸で遊ぼう

紅林千津子

はじめまして横浜ラポールで陶芸のお手伝いをしている一人です。昨年6月頃でしたでしょうか、内田さんが突然ラポールにたずねてきて陶芸教室をやりたいとのことで、たまたま他の陶芸教室で居合わせたメンバーごとお付き合いするハメになりました。それ以来ウッチャンのあのオシャベリのお相手をさせていただいております。

皆さんにお会いして、その明るさにすっかりリラックスして毎回楽しく過ごしています。講師役の金子氏といつも言っているのですが、ボランティアは手伝い過ぎてはいけない、陶芸はもちろん何をするにしてもできるだけご自分でやっていただく、それが基本です。はじめの方には作陶のしかたや、工房の使い方はお教えしますが、作るのはご本人です。ですから、代わりに作陶はしません。ちょっと冷たいようですが、自作の作品を作っていたいただきたいからです。あなたのイメージのままに作っていたいただきたいのです。市販の陶器のようなきちんとしたきれいな作品を求めるなら、お店で買ってください。だから暇にまかせてオシャベリばかりしています(?)。

ただ、はじめはこうしたい、ああしたい、こんなもの作りたい、いろいろご希望を言ってください。ときには形づくりもお手伝いしますから。あるいはボランティアのメンバーもついつい夢中になって代作してしまうこともあるかと思いますが、そのときは「オレが作っているのだ!」と言ってください。そう、お互いに言いたいことを言いながら作陶できる教室でありたいと思います。

また、教室の会場としている創作工房は、1室をJRPSのメンバーが借り切っている部屋ではなく、フリーの、いろいろな人たちが自由にいろいろな創作活動をする部屋です。そのため、隣のテーブルでは一般のひとや車椅子のひとが陶芸をしていたり、絵を描いていたたり、人形づくりをしていたり、とさまざまです。創作工房の3分の1は料理ゾーンですから、グループで料理を楽しんでいることもあります。遊びにきた皆さんが、お隣さんとお互いに協力し合い、譲り合い、ときには友達になったりする場です。

ちょっとしつこくなってしまうまして失礼しました。皆さん楽しんで

で陶芸してください。ウッチャンもみんなに遅れをとらないようがんばっているようです。私も『夜道でついてくる白杖の音に気をつけろ』と脅されながらもめげずに遊ばせていただきます。

●希望の光

横須賀市 石川 祐子

自分で出来ることがめっきり減ってしまった今の私。しかし陶芸教室に参加してやっと見えない苦勞・苦惱から解放されるのではないかという希望がわいてきた。指先の感覚で想像する楽しさ、無理して見ないでいい気楽さが実に心地よい。それにその後がまた楽しい。ビール片手にたくさんのオシャベリ。私は一人ではない。こんなにいい人達に囲まれて幸せ。心からそう思った。

この会でウッチャンが、私と同じ高校の2つ上である事がわかり私は“後輩”という名誉ある(?)称号をいただいた。そして12月のミニ集会の日、私より十歳年上で娘さんも私の娘より十歳年上・目の見え方・日々の暮らし方・買い物の方法まで同じ高木さんとも知り合えて嬉しかった。後で隣に来た中村さんは、口から唐揚げか何か分からないものを私の手の上にビュンビュン飛ばす。心優しい私はそれらをひとつずつ指でつまんでは灰皿に捨てていく。ウッチャンに「バカッ」と言った時、私の視力でも鶏肉と分かるくらい大きなものが私の手の平の中にスポンと納まった。内心ちょっとあせったが私の顔から笑顔が消えることはなかった。なぜならば、どこの会場でも誰よりも堂々と演説される中村さんのお茶目な部分を見ることが出来て嬉しかったからだ。

2002年にはRPの行事にたくさん出かけで行こうと心に強く誓った。

●世界会議に参加してもいいかな？

茅ヶ崎市 中村善暁

いよいよ世界会議の申込が始まってしまった。私としては不安が一杯なのだ。なにせ英語がまるでわからない。学校で遊んでばかりいないで、もっと勉強していれば……。でももう遅いのだ。外人を見たら「話しかけられたらどうしよう」と、さっさと遠ざかる。そんな私が外人が一杯くる世界会議に参加しても、逃げ回るのに疲れてしまう。だけど本部役員だから申込しないわけにはいかない。(もう夜も眠れない)

悩んでいた私は世界会議の実行委員会で思いきって(と言うより恥をしのいで)、「世界会議の通訳ボランティアって、個人の通訳もやってくれるんですか？、外人に話しかけられたとき、助けを求めれば通訳してくれるんですか？」と質問しました。「そうですよ、そのために外国語の話せる語学ボランティアを大勢募集しているんです。」これを聞いた中村は、今までの悩みはすっかり忘れて、「外人が、ABC, ABAB、なんてわけの解らないことを話しかけてきても、お～い、通訳お願い、でいろんな外人と話せるね」とか、「外人に、あんたどこからきたの、友達になって～な」、「あんたも日本語勉強せなあかんよ、そんでないと、わしと友達になれんよ」、「お～ベッピンさん、どっから来たの？」、なんて会話がはずんで楽しいね。悪乗りしていた中村に、実行委員のキツイ一発！ 「あんまりよけいな事は通訳してくれないかもよ、それに、もっと品位のある会話にしくっちゃや」。

だけどこれで英語なんてカラッキシだめな中村にも、世界会議は楽しいものになりそうな予感！。外人にも日本語を少し勉強してもらって、勿論、中村も少し英語を勉強して、日本語と英語がゴチャマゼの文通ができるキッカケにならないかな？ そんなアホなことに胸を膨らませて、又夜もねむれない。

外人の先生の講演もどんなこととお話ししましたよ、など通訳がいるから、これも安心。言葉に不安な人が沢山いないと、中村だけが目立ってしまいそう。英語の苦手な人、中村が目立たないためにも、参加してよね。そして、会場で、「通訳お願～い」があちこちから発せられる、楽しい会議にしようよ。

—◇編集後記◇—

2月の終わりに、10年ほど住んでいた川崎市高津区から、横浜の大口の方に住所を移しました。家の中もまだ片付いていませんが、環境が変わり、毎日が新鮮で、たまには引っ越すのも悪くはないなと思いました。4月からは子供は新しい保育園へ、妻は家の裏手にある学校へ（なんとそこは横浜盲学校！）ドタバタする毎日が続きそうです・・大口に詳しい方、何かいい情報があれば教えてくださいね。

（ちなみに、いつも投稿して下さっている某U氏は大口駅西口にあるモスバーガーは夕方、女子高生がいっぱいいるのでいいぞ！と教えてくれました）

発行人：身体障害者団体定期刊行物協会
東京都世田谷区砧6-26-21

編集：JRPS神奈川支部会報編集部
阿部直之

〒221-0002 横浜市神奈川区大口通 87-3-402
TEL・FAX 045-435-1448

定価 200円